



三河貴裕総合診療科・感染症科部長

合診療科・感染症科の三河貴裕部長は、解決の鍵として、全身のさまざまな症状に対応する総合診療医の存

やまし医療

最前線

県立中央病院から

〈317〉

身体の不調を感じた際に経験し、不便を感じたこと (複数回答)

不満に対し、何科を受診したら良いか分からなかった 21.0%

不満に対処するために、複数の診療科や医療機関を受診しなければならなかった 9.5%

不満に対し、自己判断で受診せずにいたところ、症状が悪化してしまった 5.8%

不満に対し、自分で探した診療科を受診したが、「この科ではない」と言われた 5.0%

上述のような経験をしたが、不便は感じなかった 9.0%

特に上述のような経験をしたことはない 59.0%

※日本総合研究所(東京)の全国調査から

視野広い医療者育成へ

受診迷子、高齢化に対応

心身に不調を感じた時、どの診療科に行けばいいか。こうした理由で必要な医療機関にたどり着けない「受診迷子」が2割に上ったとする民間企業の調査もある。山梨県立中央病院総

在を挙げ、さらなる育成の制を目指す部署を立ち上げた。

りする可能性にも言及。「総合診療医がまとめて診れば、患者ごとに最適な薬や検査を提供できる。健康を維持しやすいくなる」と強調する。

三河部長は甲斐市出身。山梨医科大学(現山梨大)を卒業後、後期研修医として千葉県の亀田総合病院に勤務した。地域の医療機関や福祉施設、行政担当者らが集い、連携して患者に適切なサービスを提供できる体制を整えたいと考える。三河部長は「そこで暮らす人々がどうしたら幸せに暮らすことができるか、考えることが大

県内では「まだまだ総合診療医が少ない」(三河部長)のが現状だ。人口が減少し、地域の医療機関の経営が厳しくなると病床が縮小傾向にあるとし、「医療の効率化は避けられない。高齢化に伴って複数の病気がある患者も増えている」と説明する。

科を受診して良いか分からなかった」ことを挙げた。三河部長は「専門科の枠を超えて対応する総合診療医なら、解決できることは多い」と説明する。

複数の病気があるために患者が病院を「掛け持ち」している場合、同じ効能の薬が重複して処方されたり、同時期に同じ検査を受けた

同科の開設から10年がたった。「病院内で総合診療医の必要性が認められてきた」とする。「今後も地域のニーズを把握し、どうしたら地域住民が健康に過ごせるか、広い視野で考えることができる医療者を育てたい」と展望を口にした。

Ⅱ第2、4火曜日に掲載します